

平成28年度 第3回理事会議事録

日時 平成28年12月17日(土)15時00分～16時35分
場所 北海きたえーる 大研修室
出席者 近藤龍夫、嶋倉 昭、紺屋正雄、生島典明
洪谷研一、大江憲一、黒田謙二、須田正毅
田中昌幸、丸山道博、印藤智一、櫻庭功一
碓井喜晴、春間好実、佐藤敏夫、西谷清之
高橋克徳、関原榮司、志手典之、山内孝夫
中川裕行、宮原 勉、奈良孝伸、武田和夫
大橋公徳、川村俊明、高坂 猛
(オブザーバー: 千葉三郎、川崎尚子)

1 開 会

○総務委員長が、理事30名中25名の出席があり理事会は成立することを報告した。

2 会長あいさつ

○近藤会長から次のとおり挨拶があった。

11月に社会人東ブロック大会が江別で開催され成功裏に終了した。また、札幌協会の70周年記念事業が盛大に開催された。今後は、2018女子世界選手権や日本スポーツマスターズなどが開催されるが札幌協会をはじめ皆さんの協力をよろしく願います。また、『一般社団法人北海道バレーボールクラブ』が設立された。Vリーグ準加盟のヴォレアス北海道の今後の活躍を期待したい。

3 議事録署名人の選出

○会長が議長となり議事録署名人に会長のほか山内理事、印藤常任理事の2名を指名する。

4 報告事項

(1) 平成28年度前期事業実施状況について

○各委員長から次のとおり説明があった。

①総務委員会

・MRSの登録状況は、チーム数6減だが登録者が1,196人増で、特に小学男子が512人増加している。

②競技委員会

・大会は順調に終了しているが、9人制の実業団、総合選手権、総合大会の参加チームが無く対応策が必要である。

③審判委員会

・日本B級審判員講習会(8/15～17・大阪)に中津川雅宣氏・藤井靖香氏(札幌協会)、川島秀夫氏(北見協会)が参加した。

・地区協会審判講習会により北海道級197名、日C級64名が新規資格取得した。

- ・日本名誉審判員に田中昌幸氏（深川協会）、名畑五朗氏（岩見沢協会）を推薦することを、北海道名誉審判員に佐々木純一氏（深川協会）を決定した。

④強化委員会

- ・国体の結果は、少年が接戦の試合での敗退でありレベルが上がってきている。

⑤指導普及委員会

- ・例年どおり数多くの事業を順調に進めている。

<質疑>

○参加チームがゼロの大会があるが改善策はあるのか。

⇒9人制大会の参加チーム増加策等について検討を進めているが厳しい状況である。

○国体チーム強化で、次は勝つという気概がなければならない。ジュニアキャンプでは地域差が出ている。北海道は底力があるのでそろそろ結果を出して欲しい。

⇒しっかり取り組んでいく。

(2) 平成28年度一般会計執行状況について

○総務委員長から次のとおり説明があった。

- ・一般会計執行状況は、前年度の繰越金が942,180円あること、また、大会未開催による支出減等もあり黒字決算の見込みである。

<質疑>

○大会参加料、審判登録料、MRS配賦金が収入減となっているが大丈夫か。

⇒大会参加料は高校新人大会が2月開催されるため予算どおりに、審判登録料も年度末に入金される見込み、MRS配賦金は3月末に後期分が入金される予定である。

○単年度収支は赤字にならないか。

⇒繰越金がなくても黒字となる見込みである。

○MRS配賦金のルールはどうなっているのか。

⇒登録料は小学の300円から一般の2,000円まで差があり、原則、選手カテゴリは20%、役員カテゴリは70%が都道府県協会に配賦されている。

5 協議事項

(1) 平成29年度全道大会開催地について

○競技委員長から次のとおり説明があった。

- ・No.16の国体成年の開催日は8/19(土)～20(日)、No.19の天皇杯・皇后杯北海道ラウンドの会場は千歳から札幌に、No.25の天皇杯・皇后杯北海道ブロックラウンドの会場は札幌から千歳に、No.34のスポーツ少年団交流大会の開催日は11/18(土)～19(日)になる。

- ・北海道大会開催主管協会年次別一覧中、天皇杯・皇后杯の北海道ラウンド開催地は来年度以降、札幌に固定する。このため、H29ブロックラウンドは千歳に変更する。

高校新人大会の開催地は、H29が釧路、H30が函館、H31が千歳、H32が北見で調整する。

クラブ連盟は来年度から北海道デザート杯を開催する。H29の開催地は帯広の予定。

※提案のとおり承認される。

(2) 財政等検討委員会提言に基づく見直し内容について

○理事長、総務委員長から次のとおり説明があった。

①大会参加料と大会助成金について

- ・平成29年度からチームが納める大会参加料は主管団体へ交付し、大会助成金は廃止する。なお、ママ連・ソフト連・ビーチ連に交付している定額助成金については、激変緩和措置等について検討していく。

②チーム賦課金と加盟団体助成金について

- ・チームからの賦課金は従来どおり道協会の運営財源とし、加盟団体間でのバランスを取るため平成29年度から学連の11,000円は高体連と同じ12,000円に値上げする。また、中体連は1,000円を4,000円に値上げし、その内2,000円についてはJOC選抜強化費等の財源とする。
- ・加盟団体への助成金は、賦課金の一部とMRS配賦金を財源とし交付することとし、各団体との助成額等に関する協議を経てから実施することとする。

③全国大会助成について

- ・平成29年度から一般会計から交付している全国大会助成金は廃止する。なお、大会を開催した団体が運営収支で赤字となることも想定されるため、特別事業等基金での支援策について検討する。

④天皇杯・皇后杯北海道ラウンドの参加料について

- ・平成29年度から一般チームは15,000円、高校チームは10,000円に減額し、参加チームの増加を図る。
- ・参加料減収補てん策としては、JVAから交付される4,000円/チームを活用することとし、交付条件である16チーム以上が参加するよう努める。

<質疑>

○天皇杯参加チームが15チーム以下だったらJVA助成はないのか。

⇒そうならないように高校チーム等の参加を促していく。

○全体収支総額で260万円程残るが、JOC強化に充てた残りの170万円は何に使うのか。

⇒指導強化に充てたい。

○登録チーム数が減った場合はどうするか。

⇒減少させないよう努力をするが、対応できる仕組みを目指している。

○各種大会への助成金はゼロになるのか。助成金はいつから変わるのか。

⇒大会運営は参加料を全て充ててもらう。助成金の見直しはH30からと考えているが、加盟団体と協議していきたい。

○中体連4,000円値上げのうち2,000円をJOC強化に活用することの理解を得られるか。

⇒中体連には値上げについて理解されると考えている。

○一般会計はトータルで170万円の黒字になるようだが、基金との連結では赤字ではないか。

学連の1,000円値上げは道協会主催大会がない中で大丈夫か。地区では中体連からの要望に沿って値上げし、その経費で地区選抜大会への参加助成をしている例もあり、中体連とよく相談してほしい。全国大会助成費は元々25地区協会から2万円ずつ負担してきた50万円だったのではないのか。

⇒経緯等についてはご指摘のとおりであり、それらを踏まえて進めていきたい。

○加盟団体助成金については、普及の枠を広げるためにも激変緩和が必要ではないか。

⇒その方向でさらに検討していきたい。

※提案内容については承認され、詳細をさらに詰めていくことが確認された。

6 その他

○2018年9月24日～10月4日の間で世界選手権女子が札幌市で開催されることが内定した。

○2017年11月11・12日に深川市でVプレミアリーグの開催が決定した。

○2018年2月3・4日のVチャレンジ女子2開催地を募集しており、希望があれば理事長まで。

○ヴォレアス北海道はV機構準加盟の実地視察を受け、その際、機構から指導を受けた。

○熊本地震に対する義援金（熊本県協会20万円、大分県協会10万円）送付の報告があった。

○ヤング連盟から平成28年度取組状況と平成29年度大会及び教室開催予定が報告された。

7 閉会


【第4回理事会：3月18日（土）北海きたえーる】

議事録署名人

会長

近藤 龍夫 

議事録署名人

山内 孝夫 

議事録署名人

印藤 智一 